

コーティング鋼管「リユーコート」

全国規模で受注拡大 大規模新築物件、改修案件で

流動浸漬法によるコーティング鋼管のパイオニア、流浸工業（社長＝大久保幸廣氏、本社・大阪府堺市美原区大保225）が自社ブランドで展開する「リユーコート」の需要が伸びている。こ

れまで首都圏をはじめ、関東地区での大型施設、都市部の再開発プロジェクト、新築物件や既設配管設備の改修案件が必要の多くを占めていたが、

「今期は、首都圏に加え、中部地域から中国、九州でも大型物件で採用いただく事例が相次いだ」（関東事業部・大久保秀俊関東事業部長）とし、全国的な広がりが顕著になってきた。首都圏での再開発プロジェクトでは口径400A、450Aといった大口径の受注が多いとしており、受注そのものの大型化傾向も目立っている。

関東事業部・大久保秀俊関東事業部長は「上期（2015年1月～6月）は前年同期比二桁増。

特に関東地区は大規模建築物で多く採用いただいており、今期に入って急増している。通期で見たリユーコート全体の受注は前期比約120%だが、リユーコートLightも単独の受注量は同200%超。これからの案件についての問い合わせも増加している」と量的な拡大が続く現状について話す。

これまで管工機材・設備総合展など関連する展示会への出展やスペックイン活動に地道に取り組んできたが、ここに至ってそうした提案活動が一気に開花した恰好。大手設備会社での勉強会も定期的に行うなど前段階での反響も大きく、同社としても手応えを感じとっている。

流浸工業が国内でいち早く技術導入した流動浸漬法は、流動浸漬用パウダーを入れた槽の下部に多孔質の隔壁を設け、ここに圧力をかけた空気を注入、圧力で隔壁上部の粉体を均一に浮かす。この流動層に加熱した基材を浸漬することでピンホールのない均一な塗膜（膜厚200μ以上）を形成するという技術。ナイロン11、塩ビ、EVOH、ポリエチレンなどの樹脂を流動浸漬法により鋼管の内外面にコーティングする「リユーコー

ト」、同工法を用いて1.6tスパイラル鋼管に塩ビコーティングを施す「リユーコートLight」、1.6tのダクトに塩ビコーティングを施す「リユーコートダクト」（リユーコートLightとリユーコートダクトの名称をリユーコートLightに統一）などを手がけている。

大型施設や再開発関連案件での採用事例が多いリユーコートLightは、板厚6tの薄型フラッシュの使用により、大幅な軽量化を実現しており、施工のスピードアップを実現。腐食に強く耐候性にも優れ、臭突管や排気管などの配管腐食対策に適する。口径は150A～500Aまで対応し、550A以上についても相談に応じている。

地域別ではウエートの高かった首都圏、関東からさらに広がりを見せている。

同社では今後について「現場営業と並行して建築設計会社へのPRを展開してきたが、製品に関する問い合わせや設計への織込みの進行など認知度は確実に高まっている。現場でのニーズ吸い上げに注力しながら新製品開発にも取り組んでいきたい」とし、一層の拡大に向けた戦略を展開する方針。